

来年の議案にそのまま使える背景・目的

背景 毎日の買い物が、国の安全保障につながる

日本の食料自給率は38%と先進国で最低水準にあり、食材の多くが輸入に頼っています。食材選びが国の安全保障を左右するという自覚が家庭に浸透していません。その原因は、価格だけでなく、地域の生産者や食の安定性にも目を向ける機会が少ないためです。家庭から国産食材を選び支える意識が広がる状態にする必要があります。

目的 国産食材の選択が、地域と国の未来を守る

日々の食材選びが国家の安全保障に直結するという自覚を家庭に浸透させることで、国産品を日常的に選ぶという購買行動が社会に広がる状態をつくることを目的とします。

運動手法

① 農業・食育体験プログラムの実施（事業）

パートナーとなる地元農家や食品企業、学校などの協力を得て、親子で楽しみながら農業体験を実施し、食の裏側にある生産者の想いやコストについて学ぶことができる場を提供します。

② 家庭での実践と習慣化（推進）

体験後に親子と週1回は地元食材や国産品を選ぶといった約束を交わし、作った料理をSNSで発信してもらうことで、意識を行動として定着、波及させます。

③ 出前授業・啓発で運動を地域に広げる（例会）

農業・食育体験プログラムやSNS発信の成果を持って地元の学校で出前授業を行い、推進事業の成果を地域全体に広げます。

どんなLOMIに向いてる？

身近な「食」をテーマに、地域を巻き込む事業を作りたいLOMI

「食」は誰もが毎日関わる一番身近なテーマです。大規模な予算や特別な設備がなくても、地元のスーパーでの啓発や、小規模な調理体験から始めることができます。LOMIの規模を問わず無理なく取り組み、子育て世代の強い共感を得ながら、確実に地域に波及する運動が構築できます。

この運動をするとあなたの地域はどう変わる？

日々の買い物で、地域の農家と食の安全を守る

地元食材を選ぶ人が増えれば、地域の農家は安定して生産を続けられます。農地が残ることで、いざという時も食料を確保できる体制が整います。毎日の買い物が、家族と地域の食の安全を守ることに直結します。

Point 運動構築におけるアドバイス

- ・ 安全保障という固い言葉ではなく、毎日の食卓の話として始めましょう。
- ・ 最初のパートナーは一つで十分。農家、学校、スーパーどこからでも始められます。
- ・ 事業をやりっぱなしにせず、SNS発信など事業後も続ける仕掛けをセットにしましょう。
- ・ ターゲットは子育て世代が共感を得やすいです。

